第２回白馬村学校のあり方検討委員会　議事録

１　日　時　　令和 ３ 年 ３ 月２３日（火）
　　開会　午後　４時００分　　閉会　午後　５時２１分

２　会　場　　ウイング２１　多目的室

３　出席者　　委　員　　田中　　哲
　　委　員　　松島　安則
　　委　員　　柏原　周平
　　委　員　　高野美海子
　　委　員　　徳武　信一
　　委　員　　倉科　浩美
　　委　員　　松下　設吉
　　委　員　　清水　　蛍
　　委　員　　塩島　弘之
　　委　員　　窪田徳右衛門

　説明者等　　教育課長　　横川　辰彦
　　教育係長　　鈴木　広章

４　報告　　白馬村学校教育の現状について

５　議事の大要

○開　会

皆様、こんにちは。定刻となりましたので、第２回白馬村のあり方検討委員会を開会します。委員の皆様にはご多忙の中お集まりいただき、誠にありがとうございます。本日は、松田委員が欠席、中学校長の浅原委員が急用で欠席となりました。よろしくお願いします。

（塩島委員長）

年度末のお忙しい時期に参集いただき、ありがとうございます。感染症の拡大により、２月に予定されていた第 2 回目の本検討委員会を年度最後の本日開催できた。皆さん不安な日々を過ごし、行政も学校運営も大変だったと思う。本日は様々な忌憚のない意見を頂きたい。

この検討会議は､学校教育について多方面から意見を言えるということで進めてきた｡今日は、学校を理解する意味で会合を持っている。中学校が急遽欠席で小学校２校のみの説明となる。

感染症対策で、終了時間 17 時 30 分を目途とさせていただきたい。1 校 15 分程の説明の後、質問を受けたい。

前回の検討会で少子化について事務局から触れられたが、その他にも委員の方々で課題があれば発言、質問して欲しい。

（倉科白馬南小学校長）
白馬南小学校の令和３年度グランドデザインを資料に、教育状況を説明。
来年度以降に求めるものは、あたたかい言動。児童に応じた学びの場の提供。

（塩島委員長）
南小学校の課題を含めて説明いただいた。分からない点、質問があれば発言をお願いする。

（A 委員）
はげみ合うと重点あきらめず「努力」、むつみ合うとあたたかい「言動」が対応しているのは分かるが、学び合うとあかるい「あいさつ・返事」はどのようにリンクしてくるのか。

（倉科白馬南小学校長）
あいさつは積極性を表しており、前向きに学ぶための取り掛かりとして位置付けた。それぞれ、「合う」を語尾に付け、子どもが取組易いように記憶に残ることを意図して揃えたもの。

（松下白馬北小学校長）
白馬北小学校の令和３年度グランドデザインを資料に、教育状況を説明。
来年度の目標を基に纏めている最中で、暫定的なもの。
村教育大綱・校長の願い・保護者地域の願いを纏めており、豊かなことば（ことばを磨く）を目標に学級づくり・授業づくりを進める。
人事的な部分で、北安曇郡北部出身の教員が少ないので、教員数が足りなくなる傾向があり、年齢構成が 20 歳 30 歳代中心になる。これは学校運営には良いことで、活気のある有難い学校だと感じている。

（塩島委員長）
北小学校について質問をお願いする。

（B 委員）
教員の人事異動は希望が反映されるのか。

（松下白馬北小学校長）
希望を聞きながら進められるが、全て希望通りというものではない。

（B 委員）
北小学校の異動希望が少ないことに理由はあるのか。

（松下白馬北小学校長）
最終的に教員は、定年前には地元（自宅所在地）に戻るので、北安曇北部の出身者が少ないということ。もっと言えば、この地区から信州大学教育学部への進学者が少なかったということ。

（B 委員）
南小・北小の卒業生で教員になる者が少ないということですか。

（松下白馬北小学校長）
教員を目指してもらえる、教員になりたくなるような教育を実施できればと思う。

（C 委員）
最近は、保護者の考え方が様々で、先生が学級運営し辛い部分があるのではと感じる。ある事柄から、担任の先生の行動が間違っているのでは、担任を替えて欲しいということを耳にする。それは、担任の先生に任せた方が良いと思うが、保護者の思いが強い場合が多い。

（松下白馬北小学校長）
そういった事例を伺うことはある。学校は児童と保護者を選ぶことは出来ないし、児童・保護者も担任を選ぶことは出来ない。そうであれば、気に入らないから替えるのではなく、どうやったら上手くやっていけるのか考える方が良い。

（C 委員）
気を付けていることは、子どもの前で先生方の話しをしないこと。子ども同士の話しを聞く中で、保護者の意見を口にしているのではないかと感じる場面がある。先生方を立てながら、良い方向に進めるように保護者の意識を変えなければならない。

（倉科白馬南小学校長）
保護者の意見も様々で、伝え方もまた様々である。どのように伝えるかという問題もある。しかし大事なのは、保護者の思いを学校に伝えてもらうこと。

（塩島委員長）
今の意見は、保護者の本音に迫った部分だと思います。

（D 委員）
難しいが、保護者も子どもと一緒に成長すると言うか、保護者の教育という部分も必要。何れにしても学校と保護者の連絡・連携を密にすることが、誤解を生まない方法だと感じる。2 校のグランドデザインを伺ったが、2 校ともに個性を尊重している部分の記載があり頼もしく思った。南小では地域と保護者の連携、北小では地域の教育力と書かれているが、両校ともにコミュニティスクールを設置しているか。

（教育課長）
２校ともに今年度から文科省型のコミュニティスクールに移行し、設置したところです。

（E 委員）
ICT の導入がされているが、導入の効果は表れているか。

（松下白馬北小学校長）
中学校では、オンライン授業が実施されたが、小学校ではこの年度末に１人１台の端末整備が整い、来年度から本格運用がはじまるところ。北小では在籍児童数から、体育館に全校生徒が一堂に会することは本年度一度もなかった。しかし、体育館に入れない児童については、教室で Zoom を使って入学式の様子を見るなど、様々な工夫をして ICT を活用する。

（F 委員）
中学校では４月の学校休業の際に、非常に短時間で対面授業形式のオンライン学習を実施した。
しかし２日間位は様々なトラブルが発生し、保護者を含めた協力のもとに運用が可能になった。学校休業下でのオンライン学習は効果があったと思う。

（倉科白馬南小学校長）
現在、教員もクロムブックの研修をしている。得手不得手があるがうまく運用したい。

（E 委員）
コロナ禍では、ICT の利用、リモートワークが主流になりつつある。教員も多忙な中で大変だと思うが頑張って欲しい。

（F 委員）
中学校でのタブレット利用については、家の Wi-Fi 環境に大きく左右される。全員が家での利用を出来た訳ではなく、Wi-Fi 環境のない家庭の生徒は、近隣の施設や学校に行って、オンライン授業を受けている。それらの問題を解決しなければならない。

（G 委員）
小学校での１人１台の端末の利用や、家に持ち帰ってのタブレットの利用はどうなるのか。

（F 委員）
中学校での利用も全てスムーズだったわけではなく、小学校低学年の児童が家で１人で Zoom 接続し、オンライン授業を行うのは非常に難しい。中学校では PTA の会合を Zoom で行ったが、接続に苦しむ保護者も見られた。

（松下白馬北小学校長）
小学校では、e ライブラリというドリルソフトを利用しており、児童がどの位学習を進めているか、学校にいる教員が確認し、コメントを書き込むといった運用をしてきた。

（F 委員）
前回、教育課からの資料で少子化の問題が触れられた。今年度の南小の１年生は１１名であり、３０~４０人いるような学級編成と１１人の学級では、どんなメリットとデメリットがあるのか。

（倉科白馬南小学校長）
白馬南小の令和３年度の新１年生は１７名おり、これから数年間は同じような児童数で推移する。
学びの場を考えるとき、１１人はぎりぎりの児童数と感じている。6 年間ずっと同じ人間関係が継続される。しかし角度を変えると、３０人の中では支援の手が届かない児童でも、少人数の中では目が届きやすく、良い環境と言える。

（松下白馬北小学校長）
私たちが子どもの頃は、１クラス４０人以上というのが普通だったが、現在は減っている。北小では多いクラスは３１名、少ないクラスでは１７名。比べると３１名は密で、教員の目が届きにくいと感じる。物理的な教室の広さも関係するが、文部科学省では適正規模を３５人から４０人としている。長野県では３０人学級を推進しているが、どこまで求めたら良いのかと思うことがある。
白馬に赴任する前は木曽地域の学校にいたが、その村には保育園・小学校・中学校が１園・１校しかなく、ずっと同じ環境で育っている。暗黙の了解で役割分担がされていた。このような状況は非常に難しい。固定化した人間関係を壊せるのは、赴任してくる担任という状況だった。

（B 委員）
南小学校で教育を受けた関係で、客観視が難しいが南小学校の特徴をどのように捉えているか。

（倉科白馬南小学校長）
多様な価値観の基に、学校が成り立っている。学習にも運動にも熱心に取り組む姿が見られるが、スポーツに対しての熱心さが強い。

（B 委員）
保育園から中学校までずっと一緒だったことを踏まえてどうか。

（倉科白馬南小学校長）
子どもだけでなく、保護者もずっと同じ環境で、良い部分も難しい部分もある。子どもに関しては、もう少し優しい言葉掛けができるはずだと感じる。

（B 委員）
　自分の小学生期も上下関係は仲が良く、関係性が固定化していたように感じる。南小児童であった自分から見た北小児童は、都会の人達という印象だった。都会の人と中学校で一緒に学ぶことになると思っていた。北小の特徴をどのように捉えているか。

（松下白馬北小学校長）
　様々な地域･地区から白馬村に居住し､服装も考え方も多様｡全体的にのびのび生活している。

（C 委員）
　若い先生が増えて、言葉使いに気になる部分がある。何かに秀でている状態・状況の子どもについて「神だね」という言い回しをするが、短い言葉で済まされている。先生が使っている言葉を子どもが家庭でも使用している。綺麗な日本語を使って子どもに接して欲しい。

（塩島委員長）
　C 委員の発言は、要望ということでお受けする。

（松下白馬北小学校長）
　昔は児童を呼ぶ際にも呼び捨てであった。今は名前に「さん」付けで呼ぶように変わった。普段はあだ名で呼んでも、授業ではフォーマルにしている。場面での使い分けは大事だと思う。

（横川教育課長）
　児童数ですが、南小と北小で倍以上児童数が異なる。南小では個人、北小では集団の中で個を磨くように、児童数の違いからグランドデザインにも違いが出ている。このような点で、補足があれば各校長にお願いしたい。

（倉科白馬南小学校長）
　個の力を伸ばすことができれば、理想的だと思う。集団の体育学習では、学級の人数だけでは集団種目は行えないので、多学年で行うなど、工夫をしている。

（塩島委員長）
　南小は約１００名。北小は３００名以上の児童が在籍している。学校の体制について違いを聞きたい。職員数・専科教員数の違いは、理科専科が南小にいない、北小にいるという違いで良いか。

（松下白馬北小学校長）
　その通り。来年度の６年生については、転入生の関係から１人の加配を設置できる予定。算数についてチームティーチングで２クラスを３つの集団に分けて学習する予定です。

（塩島委員長）
南小では小集団を形成しての学習を実施しているか。

（倉科白馬南小学校長）
単元によって、分けることはある。

（塩島委員長）
状況によって、工夫しながら進めていただいているわけですね。前回の検討会で、教育委員会から少人数の中身についてお聞きしたい。

（倉科白馬南小学校長）
今年度の１年生の１１名は非常に少ないが、目が届きやすい有難い人数だった。関係性が固定化するという部分では、人数の少なさはマイナスになる。

（松下白馬北小学校長）
社会が知識を積み上げ、上司に言われたことを聞くという仕事の流れから、自ら考え問題解決を図ることに変わっている。人との関わり合いが苦手な子どもについては、居場所が重要で、長野県の自閉症・情緒障がい児の在籍する自情障学級の在籍数は、全国の中でも増え続けて１位。以前は子どもを支援学級に在籍させて指導する考えから、それではいつまでも集団になじめないということからインクルーシブ教育が主流となり、集団の中で出来るだけ一緒に学ぶ流れとなった。しかし、集団の中では学習の難しい児童もいる。児童の最適な学びの場所は何処なのか。最近は選択肢が増え、家でオンライン学習したいという保護者も出てきているが、それらの思いも尊重しながら、成長してどういう大人になるのかも見守らなければならない。

（A 委員）
自情障学級に通級していた。支援学級に入れたくなかったが、学級担任の対応等で入級せざるを得ない状況があった。学校内ではどのような研修を行っているのか。

（倉科白馬南小学校長）
ユニバーサルデザイン等、様々な研修を実施している。

（松下白馬北小学校長）
通級指導教室への通級児童、自情障学級在籍児童についても、原級に復帰をめざさなければならない。合理的配慮、ユニバーサルデザインの履行、担任任せではなく、療育支援コーディネーターと連携し、校内で統一した児童配慮の計画の基に進めなければならない。

（塩島委員長）
本日は２校のグランドデザイン主に、学校理解を深めていただくために実施した。ICT 関係、少子化の問題、南小と北小の児童の違い等、出された意見も多岐に渡っている。今後の検討委員

会の話し合いをどう進めたらよいか。本日の話しのように、話題の範囲が広すぎると感じている。今後、どのように進めたら良いか委員の皆様から意見はあるか。

（D 委員）
　前回の検討委員会で、教育長の諮問内容・意見と事務局から９回の会議実施について説明があった。しかし、３月末をもって、検討委員会委員も変わる。４月に新たな委員を迎え仕切り直したらどうか。このまま進めるには話題が広すぎる。

（塩島委員長）
　次回の検討委員会実施を５月中旬に設定し、それまでに教育委員会で議題を絞ってもらう。４月に教育委員会と委員長・副委員長で協議し、方向性を定めたい。そのように進めさせていただきたい。

（全委員）
了承。

（塩島委員長）
　次回の日程調整については、追って連絡する。倉科委員においては３月末で定年を迎えるが、長きにわたりご尽力いただき、お疲れ様でした。ありがとうございました。進行を事務局にお返しします。

○閉　会